

石原六郎日記 2

昭和 49 年 2 月

2 月 1 日 (金) 曇 微雪

9・26 の上り (10 分おくれ) 鳥海家に寄り、武田家で注文してあった書物を受け取る。豊彦君と行き会いパチンコ。伊豆栄で昼食 (カツ丼と酒) をおごられる。誘われて光が丘図書館に行く、カードで木村毅の「ドボボール教徒の話」を知る。1・53 の下り (10 分おくれ) で帰り、よしので酒。ところが県民手帳 (金がはさんである) を忘れた事に気付く、図書館に電話すると、あった、豊彦君が鳥海の高橋というプラスチック工場主の車を止め、それで酒田。図書館に行き手帳を受け取り、小松屋でもなか (1 ケ 30 円) を買い、図書館に届ける、豊彦君はバス停に居ない、歩いて西高前から乗る、バスが能登興屋と古湊の間で故障、50 分待って代車が来て帰宅は 6 時、仲條君と戸辺君に電話して長話。

受 最終戦争時代論 10 部。山口重次

出 仲條 (デ) 戸辺 (デ)

2 月 2 日 (土) 雪

風なく雪が休みなく静かに降る、午後 2 時半 47 cm 3・07 のもがみ 20 分おくれに付、自転車屋に行き文昇堂に電話し出迎えを辞退、山形着は 5 分おくれ、すぐバスで文昇堂、本間君だけが来る、吉野君電話、留守。やがて吉野君から電話あり、誘うと酒一本下げて来訪、昭治氏と初対面、吉野君の方が半年先輩だという。大分飲んだ。

受 田々宮、信幸 (デンマークから) 仲條 (デ 2 回)

出 役場、本宮君 (デ) 荻野○車 (日蓮教入門) 昭治氏は戸辺君に電話する

2 月 3 日 (日) 曇

朝寝していると仲條君から電話あり、上越廻りで夜 9 時ごろ酒田に着くことにしたという。昼は昭治氏の料理でそば。歩いて杉沼家。八文字で別れる、3・22 の月山 2 号で 7 時前帰宅、敏子さんが今朝帰宅したと電話あり、

受 永山純夫

2月4日（月）曇

11 時 10 分頃、俊夫君が役場から電話してよこした、来訪したいが列車時刻はということ、すぐ駅にかけつけ、切符を買わずに下りに間に合ったとて 11 時 40 分頃来着、あぶらげのみやげ、酒を出す、大いに談ずる、5・55 駅前のバスで帰るよう、5・35 頃帰途についた。

受 五味 戸辺（デ）永山純夫

出 斎藤進次郎（デ）役場統計係（デ）正男（デ）

2月5日（火）みぞれ

11 時頃正男君が来てくれたのですぐ出発、雨のため雪道破壊、中藤崎に戻り遊佐に向かう。途中除雪車運転中のため、35 分も渋滞、正午頃ようやく正男君宅。すぐ昼食、12・45 歩いて中央公民館、マイクロバスが来て出羽大橋を渡り湯の浜。6 時から酒宴（遊佐町統計検査員協議会）芸者なるもの 2 人。私は着くとすぐ茶碗 1 杯の冷や酒を飲み、酔ったので早く寝る。
湯の浜

出 五味 小林正之 永山純夫 わし丸一平（慰問と激励）

2月6日（水）晴

9 時半にホテルのマイクロバスで致道博物館、私は病院。大瀬さんに寄り再び博物館一行は

三味庵、11・50 のバスを待ったが来ず一行は十日町に向う、私は別れて白井、タラをもら
う、辺見君に寄りて、15 分の急行で駅前から出発、山銀下車萬屋は休みで門札は受け入れ
ず、歩いて光が丘病院まで行き、4・40 分頃バス来たり帰る、高崎の植原悟青年が鶴岡の奈
良館から電話。今日西山に来て 2 時まで待ってたらしい。明日来るといふ。次いで仲條君か
ら電話。再三打ち合わせた結果、明日 10 時私が仲條くんに行き直ぐ鶴岡に飛び植原君を
訪ねることとする、

受 植原悟 (デ鶴岡) 仲條 (デ)

出 〃 (デ)

註 大瀬=昭和 24 年頃、母子共西山に在住した。

2 月 7 日 (木) 小雪時に風雪

9・15 の藤崎廻りバスが 25 分も遅れた、大型車のすれ違いが混乱の源だ。〇〇〇〇はじめ
て本間若夫人に会う。10・35 分頃出発。鶴岡奈良館着 11・15 頃。植原君を乗せ (海苔のみ
やげ) 致道館前を通り致道博物館、見終って三味庵。

本住寺→駅で 1 時半頃別れる、植原君は 13・54 で天童泊りをすすめる、6 時頃文昇堂に電
話したが留守、夫人に植原君のことを頼む。鶴岡駅からすぐ酒田へ、郵便局のわきで降り、
私は萬屋に寄り陶器の門札を武田泉で「村からの〇覚」を受け取り今町から女鹿行に乗り、
(駅 3・30) 〇〇〇〇。4 時過ぎ本間夫人と 3 人で出発、国道十字路でガス欠。本間夫人を
届け、すぐ引き返し、もう一度向島に寄る (風呂の水出し放しのため)。旧国道から十里塚
に廻りわが家に入り、原稿用紙を直す、彼は菅原さんに行く。

出 昭治 (デ不在)

註 武田泉=酒田の本屋

2 月 8 日 (金) ぬれ雪

朝昭治氏から電話あり、植原君のことにつき問い合わせ（9時頃訪問するという電話あったというので）次いで植原君から電話あり、事務所を訪問したので仙台に行く。午後2時徳次氏を訪い、3時帰宅すると2・30三木市野田稔君が来訪したと、青江の「石原莞爾」を置いてある、すぐ駅に行って会う、象潟のユースホテルに行くと4・34送る

受 昭治（デ）植原（デ山形）

出 仲條（デ）

2月9日（土）雪後風雪

大橋末男君が役所から電話してよこす、仲條くんが明日午後に招待してくれたので正男君も誘う、午後1時半頃、野田稔君象潟から着、飛鳥は欠航であきらめ今夜帰る由、ゆっくり話し、4・50分（10分おくれ）で出発、駅まで見送る「きたぐに」で帰ったはず、

受 大橋末男（デ）仲條（デ）荻野

註 大橋末男＝警視庁機動隊巡查

2月10日（日）小風雪

姉の再入院満5年の日だ、7・41分で鶴岡に行こうとしたが30分遅れというので戻り、桐谷夫人を訪問、農業調査、歌平氏が近江氏依頼とて日蓮教入門1冊、12・54の上り35分遅れ、酒田着1・52頃、南高まで歩く1・50の女鹿行ならず聾学校まで歩く40分かかる、しばらく待つと仲條君相当に酔って帰る（隣組会合）湯に入る、6・05の女鹿行が6・26頃来た、帰宅7・02頃

出 多田睦 加藤旗子（以上姉の代理）田々宮 南部

註 歌平氏＝歌川平次郎氏・精華会・西山先輩

近江氏＝秋田の協和党员ギブツ研究家

2月11日（月）超猛吹雪

8・55 発 9・30 に乗り換え、道形下車、服部久し振りだ、正伸君が居たので、土地担保の借金の事を聞く、生活資金の場合は容易ではないようだ、病院で支払い（その前辺見君に寄る、明後13日が発病の日で満7年になる由）白井に行く重麿君居る、八間町で2・30らしいのに乗る、稀に見る猛烈極まる吹雪で本町下車が4・25頃。阿曾君不在、祖父山下のコピー屋で「ライカ渡米記」をコピー、南校行迄歩き16・40の女鹿行に乗る、帰宅6時、玄関前に折詰とリンゴあり仲條君が置いたものだ。すぐ電話する不在、

出 須田

受 協新2月号

2月12日（火）曇後吹雪

午前 鶴田汐夫人から小包、紅茶と砂糖それに「中村展」だ。午後4時泉屋夫人が電報を配達してくれた「オゲンキデスカ、テガミアトニナリスミマセン、シオ」即刻鶴田家に電話。夫人が出られた、主としてお体の話だ、遙君が池袋から打った電報だろうと思う。遙君は届かないと思われたから。

受 鶴田夫人（小包と電報）正男（デ昨日来訪の由）

出 鶴田（デ）仲條（デ）

2月13日（水）時々猛吹雪

受 菅原良太郎（デ）戸辺（デ）

出 仲條（デ）

時に陽が射すが時々猛吹雪、積雪は 63 cm となる、私が来て 20 回の冬の内最高の積雪だと思われる。夜戸辺君の電話。小田桐さんの住所電話を教える、

2月14日（木）時々吹雪

手紙を書き 3 日ぶりに町に出てつるの湯に寄ると菅原良太郎氏とおやじが将棋を指していた。朝妙ちゃんが飛び込み、バスが行ったろうがという、庄内交通に電話をかけさせ私が門に出て見ると、バスが引き返すところ、あわてて妙ちゃんを呼び寄せる。

出 野田稔（ライカ渡米記コピー） 鶴田汐

2月15日（金）曇

ようやく天気回復、列車も次第に通って来たらしい、正男君来訪、仲條くん午後來訪との電話あり、正男君正午帰る。仲條君来訪明後日は人と会うので山形行はむずかしいという、3 時前帰り行く、眞田君から久し振りの来信、盛んに政治に対するフンマンを述べている、

受 眞田米造

註 眞田米造＝東亜連盟→協和党工作員として活躍も当時は苦境にあった。

2月16日（土）小雨

急に気温が上がった、久し振りに水道の水が出た、夕方積雪 48 cm となる、最高より 15 cm 減った、朝正男君来訪、平沢に行く途中、車で踏切まで同行 9・26 の上り酒田 10 時の普通、横山——鶴岡駅の間が渋滞して 23 分かかる。下肴町下車、病院。すぐ引き返し八間町から 12・15 の急行。本町下車、街を通り西高前から 1・28（15 分おくれ）で帰る、仲條君と打ち合わせ明日月山 1 号で出形ときめる、

2月17日（日）晴に曇

6・33で出発月山1号で仲條君と同車、遊佐の一さんは米屋組合の蔵王行とて同車みかんをくれた。山形駅からタクシーで仲條君母堂に行きお茶を御馳走になり、熊谷君に一寸寄り、文昇堂そばをゆでで馳走される。佐々木本間君も来、終わる頃熊ちゃんも、中委ということだ。大いに論じ酒に酔う3・22に間に合わず、本間君に送られ6・08の急行仲條君は酒田行の車、私は鼠ヶ関行。余目で移る。仲條君はぐっすり寝ている、酒田で起して別れる、ちょっと駅前に出で見ると、彼の車が動き出すところ、15分待つて下りに乗り帰宅は9・10頃だ、雪は40cmほど減っている。3月下旬の気温だという。12日は大橋末男君が事務所に行き私に「悲劇の将軍」と何とか茶4箱@450をくれてあった。帰りに文昇堂夫人からマフラーを贈られた。

受 南部

註 熊谷氏＝当時は読売新聞の山形支店の部長職。

仲條君母堂＝山形市緑町でお茶の指導をした。

2月18日（月）小雨

いよいよ暖気、春藤からじというところだ、鳥海○三君の紹介で○○○○の留守番を希望する女の人からも電話があったが既に決定の由だから断った。雪を割ってバイクが廻って通れるようにした。

受 須田 眞山

出 須田 眞山 南部 眞田 戸辺 大橋 昭治（デ） 仲條（デ）

2月19日（火）曇

8・20頃正男君来訪、11時平沢に向って出る、どうも何の意欲もない、いよいよ恍惚の人か。正男君が去ってからバイクを小田原に持ち行き修理、2時10分過ぎ小田原から旧国道

を経て向島。はじめて竹内氏に会う、風呂に入り、酒 1 本をもらい（竹内氏の手土産 3 本の中）国道を通過して帰宅、

註 竹内氏＝〇〇〇〇で採用した夜間管理者。

2月20日（水）雨 曇

朝久しぶりに和子さんを訪ね、農業調査記入、12・30 出発 無人そばを食い向島。仲條君の車で病院。白井に寄り菅原夫人紹介の娘さんの写真（重隆君の嫁の候補）を和子さんに渡す。菅原夫人は和子さんの女学校の生徒の由、重鷹君病臥中、酒田駅にて仲條君は明日の切符を買い、再び向島からバイクで帰る。

受 広島大学（ファイル 12 冊）南〇、眞田（デ）

出 眞田（デ）広島大

夜眞田君から電話あり、彼の通信に対しすぐ返事したと言ったが、後に気がつき日記を調べ 15 日に手紙をもらい返事は 18 日に出した事に気付き、こちらから電話した。

2月21日（木）曇

仲條君はいなほ 1 号で帰宅したはず、昼前正男君来訪、大いに飲み、午後 4 時ごろ、蕨岡公民館の伊藤君を呼んで帰る。彼の車はわが家の入り口に放置、正男君のいる間に仲條君、丸の内君に電話、仲條君からも電話あり、銀のタバコ箱とダイヤ指輪の件。丸の内には青江の件、平塚の石井なる人から電話あり、弘之の消息を問い合わせ、わからず、眞田君を教え、改めて眞田君に知らせる。夜再び石井夫人から電話あり、知津の電話を教える。健作来らず 明朝 7 時半に訪問の事、

受 石井某（平塚市デ 2 回）仲條（デ）

出 南部 五百旗部眞 眞田（デ）丸の内（デ）仲條（デ）昭治（デ）

註 丸の内=丸の内久作家◎タバコケースと指輪の売却を依頼されたが意の儘にならず、
付添い婦さんの支払いに充当する為のようだった。

2月22日（金）曇夜雨

朝 7・30 健作邸の玄関に行き農薬調査記入。朝正男君来訪車を持っていった、そこで高橋
巡査と一緒に、午後、出稼ぎ調査、夜石垣正己を訪ねたが不在。

受 大橋末男、新井克輔、石原道雄

出 大橋 新井

2月23日（土）小雪

昨夜から今朝までの雨で雪は大部消えた、しかし今日は気温が下がり始め、ちらちら雪も降
った、早朝、南北の町営住宅で2軒の出稼ぎを調べ、8・45頃出発（雨中）役場に至り本宮
君に農業調査と出稼ぎ調査を出す、〇〇五郎君に行く不在、正男君宅。誰も居らず公民館に
電話したら主事の話では久吾君に行っているのではないかとのこと。寄らずに帰る、

出 石原道雄（最終戦争論）

受 重隆（デ）

2月24日（日）小雪

8・55のバス9・30の鶴岡行下肴街下車——病院——白井、鶴岡駅12・35酒田止まり街に
出て1・53で帰宅、夜谷興君から電話あり、和子さんに写真（重隆君の候補を送るよう頼
み、その上で再び重隆くんと話す）

受 南部（デ）谷興（デ）

2月25日(月) 雪

風がないので少しづつ静かに降り続けた雪が1日中の枝から落ちなかった、庄内では珍しい現象だ。夜遅く風がでたようだ、手紙を書いて出しに行く、新雪が7—8cmも積もったろうか、原稿の下書き協新の原稿がおくれて気になること甚だし、

受 野田稔(小包—羊羹と手紙)

出 野田 南部 向林 重隆 孝子夫人(デ)

2月26日(火) 小吹雪 後曇

ひるまえ敏子さんに行き彼女の封書の上書きと手紙の代筆をする、午後仲條君来訪 銀のタバコ入れと、指輪の代金しとして妻君から10万円とのこと、恐縮の外なし、協新の原稿をやっとまとめる、

出 昭治(デ不在)

2月27日(水) 雪—曇—吹雪

朝7時前仲條君から電話あり、7・20頃立ち寄る、ラカン亭に泊まっている社長等を迎えて月山2号で山形行なのだ。原稿を託す、雪中8・55に乗る、敏子夫人があやうく間に合って同車、彼女は天馬町、私は9・30に間に合い下肴町10・40主婦の店で久しぶりに食品を買い病院、大場さんに支払いすぐ戻り、11・15の急行。酒田駅まで、12・10着、12・30頃敏子さん出現。(眼医の帰り) 丸市で買物、1・28で立ち、荷物を持ち雪中玄関まで送る、夜仲條君から電話あり、3・22発で帰宅した由、その前文昇堂に電話したら仲條君が訪ねて15分して昭治君が帰店と会えなかったという、

受 丸の内 昭治(デ) 仲條(デ)

出 昭治 (デ)

2月28日 (木) 雪

夕方までよく降った、一時は 35 cmまでになった、人も来ず電話もかからず門から外には出ず、静かに2月は終わった。

註 *桐谷敏子さんは、ベーチェット病とかでその頃から両目が不自由でした。

*2・11 服部家を訪ねた際に土地を担保に借金する場合の事を正伸君に縷々訪ねている。

☆日記の後にある記述の受・出は、連絡を受けた、出したの略字であり、続く () 内は内容と手紙・電話の仕分けの覚え書きであると了承下さい。